反革命カクマルによる1・20京大襲撃、福島慎一郎同志虐殺を全身の怒りをこめて弾劾し、血の徹底復讐＝カクマル総せん滅を宣言する！

革命的共産主義者同盟　関西地方委員会
マルクス主義学生同盟・中核派　関西地方委員会
マルクス主義学生同盟・中核派　京都大学支部

（一）

京都大学の学友諸君！　すべての労働者、学生、人民諸君！

一月二十日、反革命カクマル、この憎みてあまりある日帝・中曽根の手先、ファシストどもは、京大教養部において、わが中核派のほこる革命的京大生、全学連副委員長代行の福島慎一郎同志を虐殺するという、絶対に許すことのできない凶行をおかした。

わが革共同、中核派は満身に燃えたぎる憤怒と憎悪をもってこの白色テロルを徹底弾劾し、血の復讐戦を徹底的に全面的に貫徹することを宣言する。

（二）

反革命カクマルによる一・二〇白色テロル、福島同志虐殺は、日帝・中曽根の手先となって人民のたたかいを圧殺するために、革命派を卑劣な手段で目的意識的に虐殺するという、まさに天人とも許さぬ反革命的、反人民的大罪である。

この日十時半、福島慎一郎同志は「吉田寮廃寮化攻撃粉砕・闘う自治寮防衛！　三里塚・国鉄決戦勝利、中曽根打倒！」をかかげた一・三一教養部代議員大会―教養部ストライキの実現のためにクラス討論にむかう途中、教養部A号館二階廊下において、十一名のカクマルJAC（学生白色テロ部隊）の卑劣な襲撃をうけ、鉄パイプによって後頭部を集中的に乱打され、必死の反撃と生へのたたかいにもかかわらず、十一時二十一分、無念にも絶命した。傷は後頭部のみであり、まさにJACは福島同志を殺すために襲いかかり、虐殺のための虐殺をはたらいたのだ。われわれの血は全身を逆流し、胸ははりさけんばかりである。

ファシスト反革命カクマルは、昨秋三たびにわたるバリケード・ストライキをもって十・二〇と十一・二八―二九の蜂起戦に決起した戦闘的京大学生運動が、一・三一代議員大会―ストライキの成功によって、中曽根打倒の八六年決戦に真に全学生的規模の実力決起を実現することを恐れて一・二〇白色テロルを凶行したのだ。

昨秋蜂起戦の大爆発によって、とりわけ動労カクマル松崎の反労働者的、反革命的裏切りの暴露と学生戦線＝JACの崩壊的危機によって致命的打撃をうけたカクマルは、より一層日帝・中曽根のファシスト的先兵として生きのびるために、中核派にたいする絶望的白色テロルにのめりこんだのだ。

これが許せるか！

（三）

われわれは虐殺者＝反革命カクマルを絶対に容赦しない。

福島同志を目的意識的に虐殺した白色テロ下手人＝カクマルJAC十一人はどんなことがあっても必ず摘発して全員処刑する。

JAC分子を一人残らず総せん滅し、ファシスト反革命カクマルを全員せん滅する。

カクマルよ、お前たちは一・二〇によってお前たちの、とりわけ関西カクマルの墓穴を掘ったのだ。われわれの怒りが、憎しみがどれだけ激しいか、戦慄して待つがよい。

関西カクマルの運命は百％決った。われわれはJACといわず産別といわず、中枢といわず、一人残らずファシスト反革命分子は総せん滅することを固く誓い、必ず実行する。

復讐戦貫徹＝総反攻完遂・カクマル完全打倒への火柱を関西から吹きあげよ。

（四）

われわれはすべての京大生諸君、すべての労働者学生人民諸君に、同志福島の革命的たたかいをうけつぎ、京大学生運動の革命的爆発を必ずや実現することを誓う。

虐殺弾劾＝復讐戦貫徹の声を全京大生のものとし、京大をファシスト反革命カクマルの警察＝カクマル連合的白色襲撃から守りぬき、中曽根打倒、松崎処刑＝カクマルせん滅の最大の戦場として、八六年決戦の大爆発を切りひらく。

吉田寮決戦の大爆発、一・三一代議員大会―Cストライキを戦取し、「中曽根打倒、三里塚・国鉄決戦勝利、カクマルせん滅」をたたかう革命的学生運動を京大において圧倒的に強力につくりだす。

（五）

さらにわれわれは、福島同志とすべての人民にたいして、福島同志虐殺への血の報復戦の爆発と京大、大阪市大を先頭とする学生運動の爆発のなかから、日帝・中曽根を打倒する八六年決戦の大勝利を必ずや切りひらくことを固く誓う。

三里塚二期着工阻止、成田用水粉砕、動労千葉スト不当処分粉砕・第二波スト支援、国鉄「分割・民営化」阻止、松崎処刑・カクマルせん滅、関西新空港粉砕の一～三月蜂起戦にかちぬき、東京サミット・天皇在位六十年式典爆砕の四、五月蜂起戦を日本階級闘争史上最大・最高の蜂起戦としてすさまじい大爆発をなんとしても実現するのだ。

これこそ、福島同志の革命的精神に真にこたえる道にほかならない。

（六）

福島慎一郎同志よ！　君が待ちに待った革命的激動の時代、人民の武装闘争が勝利する時代の本格的入口にあって、また君自身がそのたたかいの先頭にたつ革命的指導者としてめざましい飛躍をかちとるべきまさに歴史的な時期に、志なかばにして非業の死をとげねばならなかった怒り、口惜しさはいかばかりだったろう。

虐殺者を八つ裂きにしても、なおこの憤怒をしずめることはできない。

一九六〇年安保闘争の年の十月八日に生をうけた福島同志は、七九年京都大学教育学部に入学し、八一年第三一期の熊野寮自治会委員長となり、三里塚をたたかう戦闘的京大学生運動の中軸的担い手となった。

そして八二年四月、革命家としての人生を決意してマル学同・中核派に加盟して以来、中核派が八四年四月をもって教養部制圧―京大学生運動の主流派的飛躍を実現したたたかいの最先頭には、つねに福島同志の姿があった。権力や反革命にたいしては徹底的に非妥協で厳しく、学生大衆と同志にたいしては徹底から誠実でやさしかった福島同志は、まさに八十年代の京大学生運動が生みだした、かけがえのないすばらしい活動家であり指導者であった。

そして、昨年十、十一月蜂起戦の先頭にたった福島同志は、山口幸一全学連副委員長が十・二〇蜂起戦を指導して逮捕されたあとをうけて、今年一月六日の中央委員会において全学連副委員長代行に選出されたのである。掛け値なしに、福島同志の真に輝かしい時代がこれからはじまろうとしていたのだ。

彼の豊かにひらかれた可能性を思うとき、われわれはまさに断腸の思いというしかない。

だがしかし、福島同志こそ山崎博昭、辻敏明両同志のたたかいをうけついで、中核派京大支部に結集した内乱期の革命家であり、権力のピストル発射をものともせずせん滅戦をたたかいぬいた「十・二〇」「十一・二八―二九」世代のもっともよき戦士であった。福島同志が革命と人民のためにおそれずみずからの生命をかけたことに毛一筋の疑いもありえない。

福島同志は、まさに死をかけたたたかいをもって、われわれに内乱・内戦―蜂起の時代の勝利の道を赤々とさししめしているのだ。

反革命カクマルに血の復讐を！

ファシスト・カクマルの血の量こそ、革命の勝利をさし示す。先制的内戦戦略の旗を高くかかげ、日本革命―世界革命の勝利をきりひらけ！

日帝・中曽根と反革命カクマルを串ざしにしてうちたおす、猛然たる武装闘争、赤色テロル戦をたたきつけよ！

福島同志！　最後の勝利まで、わが戦列に永遠なれ！